

1 研究主題

自分も大事 友達も大事 認め合える児童の育成

～対話活動を取り入れた活動を中心において、自己有能感と他者理解能力を育む～

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態から

本校の子ども達は、明るく元気で人なつこく、人と関わりたいという気持ちをもっている。また、人の言動に対してすぐ反応し、「楽しい話をしたい」、「自分の話を聞いてほしい」という気持ちをもっている。

しかし、日常生活を見ていると「友達と仲よくなりたい。」という気持ちから友達に近づいても、言葉が足りないために、思いがうまく伝わらなかったり、誤解されたりすることもある。子ども同士の関係が安定しないことが多く、お互いに心を開いて言葉にできないので、協力して話し合うという良さを実感できずにいる。また、各学級で話し方や聞き方の改善に取り組んできているが、相手を見て受け答えをすることや場に応じた態度や言葉遣いなどの学習規律、自分の考えや気持ちを適切に表現したり、友達の話聞いて考えを理解したりする豊かな交流が十分にできていない。

昨年度は、「オリンピック・パラリンピック教育を通して、自己有用感・自己有能感を育てる授業の工夫」をサブテーマに、対話に焦点をあて、対話を取り入れた授業を行った。相手意識をもって取り組むことができたり、自分と友達の良さを認め合ったり、伝え合ったりする姿が多く見られるようになってきた。

このような実態を受けて、相手と向き合って自分の考えや気持ちを言語で表し、友達の考えを共感的に受け止めていく子ども、さらには、誰もが互いに人格と個性を尊重し、支え合う共生社会を実現しようとする意欲や態度を育てていくことが重要であると考えた。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標

- 知識を探究し、新たな発見を見出そうとする「自ら学ぶ力」をもつ子ども
- 自己実現を図りながら、他者を支え尊重できる「豊かな心」をもつ子ども
- バランスのよい運動能力や健康な生活習慣を身に付けている「健やかな体」をもつ子ども

本校では、上のような学校教育目標を掲げ、智・徳・体の調和のとれた人間の育成を目指している。

目指す児童像は、人権の意義・内容について必要な知識を理解し、自分の大切さとともに友達の大切さを認める価値観や態度をもち、それを様々な場面で行動として表し、人権が尊重される学校、社会づくりに貢献していける児童の育成にある。そのためには、全教科、領域の学習において人権教育を推進していかなければならない。特に、「自ら学ぶ力」をもつ子どもについては、「確かな授業規律の成立を目指しつつ、課題を解決するために、主体的にその事柄や事物に働きかけたり、すすんで人と関わり合ったりしながら、喜んで学習する姿」と捉えている。

各教科等において人権教育に関する授業を行う際には、人権教育でどのような資質・能力を育てるのかを明確にすること、つまり「人権教育の視点」を設定することが必要である。具体的には、「知識的側

面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の3つの側面が考えられる。

そこで、本研究では、人権教育を通じて育てたい資質や能力に関わる人権教育全体計画、人権教育指導計画を実行する共に、各教科の学習を通して、単元の目標を身に付けさせるとともに、人権尊重教育を通じて育てたい資質や能力を以下の視点を基に育成する。